

項目番号		項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部評価	タイトル	小項目			
理念に基づく運営						
1. 理念の共有						
1	1	地域密着型サービスとしての理念	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自の運営理念があり、各ユニットの見やすい所に掲示している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み	管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	入社時、他、会議や日々の申し送り時などに再確認しながら、常に理念を意識して取り組んでいる。		
3		家族や地域への理念の浸透	事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	運営推進会議や、事業所だより、他、行事の参加への呼び掛け、また地域の行事への参加などで交流を持ち、都度理解してもらえるよう働き掛けている。		
2. 地域との支えあい						
4		隣近所とのつきあい	管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近隣へ日常的に散歩に出るようにしており、こちらから積極的に挨拶をするなど心掛けてきた。散歩時に庭に咲いた花やお土産を頂いたり、気軽に声を掛けてもらえるようになっている。		
5	3	地域とのつきあい	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	早くから自治会に入会しており、地域の行事や自治会館の清掃日、廃品回収などに積極的に参加するよう努めている。		
6		事業所の力を活かした地域貢献	利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	職員の人員的な問題などから、事業所内の余裕がなく地域への貢献は実施できていない。		自分たちの事業所が地域に対しどう貢献して行けるのか、職員みんなで話し合うことから始めたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用						
7	4	評価の意義の理解と活用	運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	意義を理解し、具体的な改善に取り組んでいる。地域との関わりを増やせるよう、民生委員や行政などに積極的に情報の開示や報告を行ったりしている。		老人クラブや、近隣の学校など、もっと広く関わりを増やして行き、今まで作ってきた地域との関係については、更に深められるよう働き掛けていきたい。

項目番号		項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部評価	タイトル	小項目			
8	5	運営推進会議を活かした取り組み	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの活動報告、利用者の状況報告、また職員の入退職の状況、外部評価結果などについて報告し、意見交換を交わしている。会議で出た意見を活かし、サービスの向上に努めている。		運営推進会議の内容を更に充実させられるよう検討して行きたい。
9	6	市町村との連携	事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	呼び掛けはしているものの運営推進会議には、市町村担当者の参加はない。結果報告に行く他に、折に触れ連絡を取るようになっている。		
10		権利擁護に関する制度の理解と活用	管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるように支援している	必要な人には声を掛けたり、協力はしているが、それらを学ぶ機会は非常に少ない。		学ぶ機会を増やし、必要と思われる人には、もっと積極的にそれらを活用できるように働き掛け、支援したい。
11		虐待の防止の徹底	管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	学ぶ機会を持ち、常に意識をして注意を払い、防止に努めている。		研修などで学ぶ機会は限られてしまい、直接研修等に参加できている職員が少ない為、順次参加できるようにし、きちんとした知識として学べる機会を増やしたい。
4. 理念を実践するための体制						
12		契約に関する説明と納得	契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に際しては、必ず事前に説明をし、充分にお話が聞けるよう時間を設けている。解約に至る際も、事前に随時説明を行いながら、お話する機会を充分作り理解・納得が得られるようにしている。		
13		運営に関する利用者意見の反映	利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月に1度、市より「介護相談員」が来所し、利用者からの意見等を聞いてもらっている。改善点や問題点、職員には見えていない利用者の情報等を、都度伝えて頂き、ケアに反映させている。		
14	7	家族等への報告	事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月に1度「近況報告書」として、利用者の状況をそれぞれのご家族に送付している他、面会時や必要であれば随時電話をする等して、こまめに連絡を取るようになっている。		
15	8	運営に関する家族等意見の反映	家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を設けており、代表2名に苦情相談の窓口となってもらっている。ホームの苦情相談窓口、行政の窓口をホーム内各ユニット、見やすい場所に掲示している。		

項目番号		項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部評価	タイトル	小項目			
16		運営に関する職員意見の反映	運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	本社とのパイプ役として担当の職員がホームに週5日勤務するようになった。日常的に職員から意見や提案を聞く他に会議や申し送りにも出席して、意見や提案を求め、反映させている。		
17		柔軟な対応に向けた勤務調整	利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者の状況等に応じて、必要時は随時勤務調整を図り、柔軟に対応している。		
18	9	職員の異動等による影響への配慮	運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は待遇面の見直し等、努力をしている。		努力しているが、離職率は変わっていないのが現状。更なる努力を望みたい。
5. 人材の育成と支援						
19	10	職員を育てる取り組み	運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	働きながらの資格取得や研修参加に対し、運営者の理解はある。		理解はあるが、現状では人員不足等で研修を受ける機会が減っている。機会を確保できるよう環境を整えたい。
20	11	同業者との交流を通じた向上	運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市のグループホーム連絡会で世話人をしたり、積極的にネットワーク作りを心掛けている。勉強会や他の活動にも積極的に参加するようにし、情報交換等をし、質の向上に役立てている。		
21		職員のストレス軽減に向けた取り組み	運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	休憩室にはTVや冷蔵庫を用意し、休憩中にくつろげる環境を作っている。		
22		向上心を持って働き続けるための取り組み	運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者は、個々の努力や実績、勤務の状況を把握し、賃金のアップやミニボーナスの支給など、待遇の面で努力している。		更なる理解と努力を望みたい。

項目番号		項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部評価	タイトル	小項目			
安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応						
23		初期に築く本人との信頼関係	相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	必ず事前面接を行い、直接本人と話せる機会を設けて、受け止める努力をしている。		
24		初期に築く家族との信頼関係	相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	必要であれば、何度でも面接をしお話しする他、電話等でも随時対応、不安なく利用できるような努めている。		
25		初期対応の見極めと支援	相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の状況等を見極めて、本当に当ホームへの入居が望ましいのか検討した上、他のサービス利用が望ましいようであれば、他のサービス利用も含めた相談をさせてもらっている。		
26	12	馴染みながらのサービス利用	本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前に必ず来所して頂き、職員や他の利用者とりびんぐで過ごす時間を設ける等している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援						
27	13	本人と共に過ごし支えあう関係	職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	介護者と被介護者という立場におかず、共に暮らす仲間として、共感しあい、お互いに助け合う気持ちで関係を築いている。		
28		本人を共に支えあう関係	家族との職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族と職員という隔たてを作らず、家族と思いをひとつにして本人を支援して行けるような関係作りに努めている。		
29		本人と家族のよりよい関係に向けた支援	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族と本人との関係を理解し、友好的な関係を保てるよう支援し、場合によっては時間を掛けながら、関係修復からの支援をしている。		

項目番号		項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部評価	タイトル	小項目			
30		馴染みの人や場との関係継続の支援	本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族以外の馴染みの関係にある人等も、出入りし易いような雰囲気作りに努めている。ご家族からも面会を呼び掛けてもらったり、また面会の際に、継続的に来て頂けるよう促している。		
31		利用者同士の関係の支援	利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の関係を把握し、座席の配慮や、入浴・外出等における配慮、又、孤立しがちな利用者がさりげなく他者の中に入れる場面作りや配慮などを日常的に行っている。		
32		関係を断ち切らない取り組み	サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約が終了しても、大切な時間を共有した者同士として、以降の付き合いや関係性の継続を大切に考えている。退居後1年経ち家族が訪問してくれたり、運営推進会議や家族会に出席してくれたりしている。退居した利用者の面会も継続的にしている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
1. 一人ひとりの把握						
33	14	思いや意向の把握	一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々の思いや、意向の把握に努め、本人の過去の生活歴等を踏まえ、その人らしい暮らしや尊厳を支える支援をしている。		
34		これまでの暮らしの把握	一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	その人らしい暮らしを支援する為、過去の生活歴を本人やご家族から事前に聴き取りしている。入居後も、事前聴き取りでは見えない部分の更なる聴き取りや観察は常に心掛け、理解と把握に努めている。		
35		暮らしの現状の把握	一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	個々の現状は、勤務者が総合的な把握をし、朝・夕の申し送りで細かく報告している。また、大事な事はその日の勤務外の職員へも情報伝達できるよう連絡ノートに随時記入しており、職員全員が把握できるようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し						
36	15	チームでつくる利用者本位の介護計画	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	申し送りや会議等で常に個々の課題については話し合いを行っており、ご家族とも、随時面会の際等に意向の確認や相談をし、それを基に介護計画を作成している。		

項目番号		項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部評価	タイトル	小項目			
37	16	現状に即した介護計画の見直し	介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期で見直しを行う他、状態に変化があれば都度見直しを行っている。		
38		個別の記録と実践への反映	日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子等については、それぞれ個別記録に細かく記録しており、その他に排泄・食事・バイタル表、介護日誌があり、申し送りによって情報を共有している。介護計画の見直しにも活用している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援						
39	17	事業所の多機能性を活かした支援	本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	必要な介護用品の購入については、取り扱う事業所を持っており、状況や要望に応じて柔軟に対応し、支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働						
40		地域資源との協働	本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員やボランティア、警察、消防には、折に触れ働き掛けを行っており理解を得ている。他、美容室、ケーキ屋、リサイクルショップ、コンビニ等、近隣のお店などに理解を得ており、協力的・友好的である。		
41		他のサービスの活用支援	本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要に応じて、訪問看護事業所との連携を図ったり、退居の際の他のサービス利用時などに、ケアマネジャーや関係機関と連絡、相談、調整を図るなど、円滑にサービスを利用できるよう支援している。		
42		地域包括支援センターとの協働	本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターとは、折に触れ情報交換を行っている。		
43	18	かかりつけ医の受診支援	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望するかかりつけ医が、協力医療機関以外であっても、必要に応じて、情報提供や家族に代わっての付添いなど、継続して医療が受けられるよう支援している。		
44		認知症の専門医等の受診支援	専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症に詳しい医師を持つ協力医療機関を確保しており、診断や治療が受けられる他、気軽に相談に応じてもらえる体制がある。		

項目番号		項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部評価	タイトル	小項目			
45		看護職との協働	利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	医療連携体制を取っており、週に1度非常勤の看護師を配置し、利用者の日常的な健康管理や指導をしてもらっている。必要であれば電話にて随時相談できる体制にあり、急変、緊急時の対応についての勉強会なども実施している。		重度化にあたり、医療面での勉強会を今後さらに増やし、職員全体の知識の向上、ケアの向上に結びつけていきたい。
46		早期退院に向けた医療機関との協働	利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時に早期退院の希望を話し、必要な情報提供、情報交換に努めている。また、本人と家族が安心できるよう3ヶ月間の居室の確保をしている。		
47	19	重度化や終末期に向けた方針の共有	重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居の段階から、ご家族にはお話しをしている。入居後、個々のケースについては、段階に応じ、都度ご家族と細かい話し合いを早めに行い、意向の確認をした上、医師、家族、職員での方針の共有に努めている。		
48		重度化や終末期に向けたチームでの支援	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	協力医療機関の職員は皆、ホームをよく知っており、協力的でホームを支えてくれている。		
49		住み替え時の協働によるダメージの防止	本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	事前に関係者と情報交換し、ホームでのケアの詳細、本人の性格から嗜好など知り得る限りの本人の状態を細かく伝え、転居先でできるだけ本人が混乱しないようお話ししている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
1. その人らしい暮らしの支援						
(1) 一人ひとりの尊重						
50	20	プライバシーの確保の徹底	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個々の自尊心や羞恥心、プライバシーに配慮し、声掛けや対応はさりげなく行っている。特に排泄や入浴、排泄における失敗などの対応については、十分に注意して対応している。		
51		利用者の希望の表出や自己決定の支援	本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	自己決定や希望の表出を促すような場面作りを、個々の持てる力に合わせて行っている。		

項目番号		項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部評価	タイトル	小項目			
52	21	日々のその人らしい暮らし	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースを尊重し、個々の気持ちを優先させている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援						
53		身だしなみやおしゃれの支援	その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	それぞれ個性に合った服装を自由にされている。希望があっても外出が難しい利用者には職員が毛染めをしたり、化粧の時間を大切にしている利用者への支援等、可能な限り個々の希望に沿えるよう努力している。		
54	22	食事を楽しむことのできる支援	食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりのできる力に合わせ、調理の一部や盛り付け、配膳や食器洗い、テーブル拭きなどを職員と一緒にやっている。		
55		本人の嗜好の支援	本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	好みの飲み物やおやつについては、他の利用者についても配慮しながら、本人が楽しむ事ができるような支援の方法を工夫し努力している。		
56		気持ちよい排泄の支援	排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個々の排泄パターンを把握し、個々の力やパターンに応じた排泄の支援を行っている。トイレの声掛けや、誘導を行っている。夜間においてもトイレへの誘導やベッド上でのパット交換など、個々の状態に合わせて行っている。		
57	23	入浴を楽しむことができる支援	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日と時間帯はある程度決まっているが、タイミングや誘い掛け、入浴中の雰囲気作りなどに配慮し、個々のペースに合わせて、くつろいで気持ちよく入浴できるように支援している。		
58		安眠や休息の支援	一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	個々の長年の生活習慣や、また個々のその時々状況や状態に合わせて、安眠や休息を支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援						
59	24	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個々の生活歴やできる力、得意分野を活かし、楽しんで取り組んでもらえるような場面作りや役割作りを支援している。		

項目番号		項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部評価	タイトル	小項目			
60		お金の所持や使うことの支援	職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望や能力に応じ、支援している。買い物や外出先での支払いは、個々の能力に応じてお金を持ってもらい、自分でやっている。		
61	25	日常的な外出支援	事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や買い物など、その日の個々の希望に沿えるよう可能な限り努力している。		
62		普段行けない場所への外出支援	一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族支援の得られる状況は個々によって違いがあるが、いちご狩りや民謡ショーへの外出など機会を作っている。		人員不足、利用者の重度化等によって外出支援が限られている。家族による協力、支援を増やせるように働き掛けて行きたい。
63		電話や手紙の支援	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも電話の利用は可能である。家族からの電話を取り次いだり、また送られた物へのお礼の電話等を本人自らができるように支援している。		
64		家族や馴染みの人の訪問支援	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	気軽に訪問できるように、職員は明るく笑顔で迎えるよう心掛けている。又、気軽に会話を持てるような雰囲気作りを心掛け、居心地よく過ごしてもらえるよう配慮している。		
(4) 安心と安全を支える支援						
65		身体拘束をしないケアの実践	運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束が何故いけないのかを正しく理解・認識してもらうよう職員には順次研修に参加させており、他の職員へは研修の報告をしている。日常的に職員はそれぞれが常に意識し、注意を払い合いケアに取り組んでいる。		身体拘束の研修には各回申し込みをしているが、抽選漏れや一度に参加できる人数が限られている。時間が掛かっても順次全員に受けさせたい。(可能なら専門課程まで)
66	26	鍵をかけないケアの実践	運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室、玄関に鍵はかけておらず、庭への出入り、各ユニットの行き来は自由である。但し門扉においては、周辺の交通量が多く、ご家族の要望も多数あって施錠をしている。利用者の「自由な暮らし」を考えれば施錠はしたくない。		施錠をしたくはないが、人員の問題や安全性などから、現状ではご家族にも理解を求めるのは難しく、やむを得ないと考えている。出来る限り、外へ出たいという希望に沿うよう努力している。
67		利用者の安全確認	職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中は、日勤者が1名リーダーとして利用者を全体把握しており、他職員も利用者の位置や把握に努め、連携を取りながらさりげなく見守りを行っている。夜勤者もユニットのリビングに待機し、利用者の様子を全体把握している。		

項目番号		項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいき たい項目)	取り組んでいき たい内容 (すでに取り組んで いることも含む)
自己	外部 評価	タイトル	小項目			
68		注意の必要な物品の保管・管理	注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	「危ない」からと言って一律に即取り上げる行為はしない。一人ひとりの状態に応じ、まず注意を払い観察しながら工夫を重ね、なくすのは最後にしている。薬や明らかに危険な物品については目に付かない所に保管をしている。		
69		事故防止のための取り組み	転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	概ね職員は知識を学んでいる。転倒の多い利用者には、リスクについても話し合いながら、プロテクターの使用や、ベッド脇(床)に布団を敷いたりし、誤嚥については食形態の工夫やトロミを使用する等、各々の状態に合わせている。		
70		急変や事故発生時の備え	利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	非常勤の看護師により、急変時の対応や応急手当については勉強会を行っている。特に今の入居されている利用者各々について、起こり得る急変の状態や見極めの視点なども、具体的に指導してもらっている。		職員それぞれが咄嗟の事態に落ち着いて対処できるよう、勉強会の頻度を増やし、繰り返し学べる機会を作って行きたい。
71	27	災害対策	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	近隣への協力依頼はしている。また、マニュアルを作ったり、定期的に避難訓練を実施しており、消防署立会いでの訓練等も行っている。消防署との連携は積極的に図るようにしている。		
72		リスク対応に関する家族等との話し合い	一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	常に「事前」に話しをするようにしている。特に転倒については、拘束や抑制が引き起こすリスクを理解して頂いた上で、逆に起こり得るリスク(骨折等)との両方について、入居前から度々お話しし理解してもらっている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援						
73		体調変化の早期発見と対応	一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日バイタル、食事量、排泄状態をチェックし、他、動作や行動等からも異常のサインを早期に発見するよう努めている。変化やサインは速やかに管理者や当日出勤者に報告し早期に対応。個人記録、日誌、申し送りにて情報共有している。		
74		服薬支援	職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服用している薬の副作用や用法等は分かり易く個々の利用者の個人記録に挟んでいる。変更時等は随時医療用申し送りノートで連絡し、副作用を含め本人の変化の観察と申し送りを行っている。確実な与薬と管理に努めている。		
75		便秘の予防と対応	職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解しており、乳酸菌飲料や食物繊維の多い食品を食事やおやつや水分補給時に積極的に採り入れるように努め、散歩や運動を促す等の工夫をしている。		

項目番号		項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部評価	タイトル	小項目			
76		口腔内の清潔保持	口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔ケアの促し、見守り、介助を基本的には毎食後行い、利用者の状態によって難しい場合でも、1日に最低2回は行うようにしている。週に1回、訪問歯科による口腔内チェックと口腔ケアを受けており、職員も指導を受けている。		
77	28	栄養摂取や水分確保の支援	食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量は、1日を通してチェック表で管理しており、個々の嗜好や状態に合わせて対応している。量が不足する利用者には促しや介助、好む物を随時摂ってもらおう等工夫をしている。摂取状態悪い場合は申し送っている。		
78		感染症予防	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症に対するマニュアルがあり、実行している。インフルエンザについては、利用者・職員とも毎年予防接種を行っている。外出後の手洗いうがいの励行、外来者への手洗い・消毒も促している。		
79		食材の管理	食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板や布巾は、毎日消毒をしている。食材に於いては2ユニット共通でキッチン担当者がおり、食材の管理をしている。またユニットの冷蔵庫の管理、利用者居室の食べ物の管理については、主任と補佐が中心になり管理している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり						
(1)居心地のよい環境づくり						
80		安心して出入りできる玄関まわりの工夫	利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	門扉に施錠はしているものの、インターホンのチャイムですぐに職員が出て行くようにしており、明るく出迎えるよう心掛けている。庭には草花を植え、1年中楽しめる工夫をし、東屋も作ってくつろげる空間を設けている。		
81	29	居心地のよい共用空間づくり	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下やリビングは、家庭的な雰囲気作りを心掛け、季節に合わせて装飾を変えている。その他の生活の共用空間は、利用者にとって落ち着ける空間であるよう不快な音や光、臭いの除去に配慮している。		
82		共用空間における一人ひとりの居場所づくり	共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファ、玄関前にはベンチ、庭には東屋があり、自由に過ごせるような居場所を確保している。		
83	30	居心地よく過ごせる居室の配慮	居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にご家族にも説明し、理解と協力を得られるようにしている。個々の状況に合わせ、本人が落ち着いて暮らせる居室の環境づくりを本人の意向を基に、家族と一緒に考えている。		

項目番号		項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部評価	タイトル	小項目			
84		換気・空調の配慮	気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	空調の調節は、その日の気温により、随時こまめに調整している。トイレの換気に於いては常に、その他の換気については随時行っており、臭いや空気のおよみがないよう配慮している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり						
85		身体機能を活かした安全な環境づくり	建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレ、浴室等、必要な場所には手すりを設置しており、身体状況の変化に応じて手すりを増設したりしている。		
86		わかる力を活かした環境づくり	一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	職員は、個々の利用者の状態を把握しており、場所の表示、居室には表札や目印を付ける等、混乱や失敗を招かないような工夫をし、個々の状態の変化に合わせて随時柔軟に対応をしている。		
87		建物の外周りや空間の活用	建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	物干し場になっているベランダでは、利用者同士談笑されていたり、季節によってはお茶やランチを楽しむ事もある。庭の東屋やベンチでも、日常的にお茶や外気浴を楽しんでいる。		

(様式1)

自己評価票

項目番号	項目	取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
自己 評価	外部 評価	タイトル
サービスの成果に関する項目		
88		職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる
		<input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 利用者の2/3くらいの <input type="radio"/> 利用者の1/3くらいの <input type="radio"/> ほとんど掴んでいない
89		利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある
		<input checked="" type="radio"/> 毎日ある <input type="radio"/> 数日に1回程度ある <input type="radio"/> たまにある <input type="radio"/> ほとんどない
90		利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている
		<input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ほとんどいない
91		利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている
		<input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ほとんどいない
92		利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている
		<input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての利用者がころへ出かけている <input type="radio"/> 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ほとんどいない
93		利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている
		<input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ほとんどいない
94		利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている
		<input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ほとんどいない
95		職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています
		<input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> ほとんどいない
96		通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている
		<input checked="" type="radio"/> ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 数日に1回程度 <input type="radio"/> たまに <input type="radio"/> ほとんどない
97		運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている
		<input checked="" type="radio"/> 大いに増えている <input type="radio"/> 少しずつ増えている <input type="radio"/> あまり増えていない <input type="radio"/> 全くいない

項目番号		項目	取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
自己 評価	外部 評価	タイトル	
98		職員は、生き活きと働けている	<input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> ほとんどいない
99		職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ほとんどいない
100		職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> ほとんどできていない